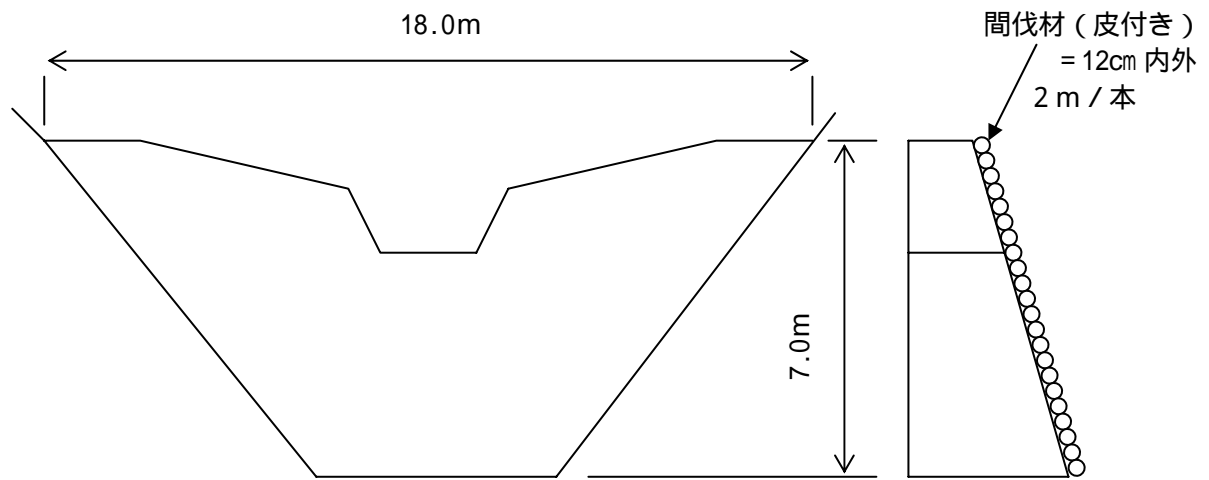


事例 NO.28		
事業の種類	砂防・治山	
環境配慮の概要	治山ダムの表面修景への間伐材の活用及び景観配慮	
事業名	林地荒廃防止事業（溪間工事）	
事業主体	広島県（担当機関：呉地域事務所農林局林務第一課）	
実施場所	広島県呉市焼山	
実施期間	平成14年度	
事業概要	全体事業費	34百万円
	施工区間等	堤長 = 22.5m, 堤高 = 7.0m, 体積 = 285.8m ³
	事業の目的・経緯等	松くい虫被害等により荒廃した森林で、土砂の移動が見受けられるため土砂移動防止と溪流の縦横侵食を防止するため治山ダムを設置した。 景観配慮については、当該施工地は呉市松ヶ丘団地に近接しており、付近には集会所及び公園があり、団地の住民が広く利用していることから、構造物完成時のコンクリートの威圧感を避け、また、間伐材の利用促進を考慮し間伐材を利用した型枠を使用し、周辺景観との調和を図ることとした。
環境配慮の内容	工法等 ・構造物完成時にコンクリートが露出することから、表面修景のため間伐材（皮付き）を型枠として利用し、そのまま残した。	
施工後の状況	効果 ・通常の化粧型枠と違い自然の物を使うことによって、視覚的にも威圧感がなく、色も自然にとけ込んだ色彩となっている。	
留意点等	・型枠に間伐材（皮付き）を利用したが、規格がまちまちで曲がり材もあるため高さの調整・管理が難しく、組み立てに手間がかかった。 ・構造物の強度には影響がないが防腐処理をしていないため、経年変化による視覚的問題について課題が残る。	

(図面, 写真, 説明)



【平面図及び断面図】



【施工後の状況】

間伐材の利用促進と景観配慮を図るため, 型枠に間伐材 (皮付き) を使用し, そのまま残した。

出典